

なし崩しの軍事利用を許すな

われわれの闘いの正義性を立証 ― 欠陥空港の現状 ―

一月一日、多数の米軍人を乗せて横田基地から南朝鮮へ向けて飛び立った米軍チャーター機が三里塚へ強行着陸した。

鳥取県上空からフロントガラスのヒビ割れによって引き返すに当り、「部品が成田にしかない」という理由だけで隣接する横田基地を使わず三里塚へ強行着陸するというこの裏に、なし崩しの三里塚を軍事空港として使用することを認めさせてしまおうとする策動のあることは明白である。

軍事郵便、軍事貨物機の三里塚利用の問題も含め、三里塚を軍事利用しようとする策動がますます露骨になってきていることのひとつの現れとして見なければならぬ。

廃港以外に道はない

この軍事利用の問題だけでなく、われわれがこの向の闘いの中で指摘しつつつけてきた生活破壊、農業破壊の実態は凄まじく、われわれの闘いの正義性がますます鮮明に突き出されてきているのが、三里塚の現実である。

この不正義と決定的矛盾から生活を守るためには「廃港」をかちとる以外に道はない。

何ひとつ守られていない 南港時の「約束」

5・20時頃に政府・公団が「確約した二三時以降の離着陸禁止は、ホゴ・同然となっており、騒音による生活破壊の実態は、政府・公団がいかにテトラメなことを言ってきたのかを証明している。

南港前、百里、羽田、成田の空域問題は研究されつくしたはずなのに、数回のニアミスが発生し、百里、羽田、成田三空港の「一元管制方式」による軍事優先の策動も始まっている。

「南港」時に約束した地元要望の京成線の芝山延長、航空博物館の建設、成田高速鉄道建設、民家の防音工事など、「南港」のための口から出まかせ」という実態である。

オ二期工事を許すな

このような状況下で、反対同盟はもちろん、周辺住民の八五〇以上がオ二期工事に反対という世論調査結果も出されている。

にもかかわらず、政府・公団は「空港周辺農業振興策」なるものを持ち出し、「対話路線」というペテン策を打ち出しつつその裏でオ二期工事強行着行を策動している。

この「農業振興策」はただ名前だけのもの、アメとムチによる反対農民の切り崩しだけを目的としているというところが暴露されてしまい、二期工区内一七戸を中心とする農民の怒りと結束はますます強まっている。

われわれの三里塚・ジェット闘争はこのような権力の理不尽を許さない闘いである。

自信と確信をもって、「廃港」をかちとるまで闘い抜こう。

一九七九年動労千葉団結旗掲げに結集した広範かつ重層的な支援、連帯のひろがりには、われわれにはつきり勝利の展望を示している。闘いの正義性ははつきりとわれわれの側にあるのだ。